

第1回甲状腺結節性疾患有所見率等調査委員会
議事録

1. 日 時：平成24年12月1日（土） 16:00～17:30

2. 場 所：アクロス福岡 6F 601会議室

（福岡県福岡市中央区天神 1-1-1 TEL:092-725-9113）

3. 出席者（敬称略、五十音順）

谷口委員長（自治医大）、今泉委員（放影研）、貴田岡委員（昭和病院）、

志村委員（山梨大）、鈴木委員（福島医大）、高村委員（長崎大）、

出席依頼：林田氏（長崎大）、緑川氏（福島医大）

オブザーバ：廣瀬氏（環境省）

原安協：今田、喜古

4. 議 題

(1) 業務内容について

- ・ 事業内容
- ・ 書面決議事項報告

(2) 長崎大学における検査実施中間報告

- ・ 検査概要および報告
- ・ 検査結果の通知方法
- ・ 課題

(3) 各大学における今後の検査予定

(4) 文献調査について

(5) 今後の予定

(6) その他

5. 配付資料

24 甲状腺 1-1-1 甲状腺結節性疾患有所見率等調査事業 実施計画書（抜粋）

24 甲状腺 1-1-2 調査委員会委員名簿

24 甲状腺 1-1-3 判定基準WG委員名簿

24 甲状腺 1-1-4 調査実施計画書

24 甲状腺 1-2-1 [2012年] 長崎大学甲状腺検査準備経過表

24 甲状腺 1-2-2 長崎大学中間報告

24 甲状腺 1-2-3 甲状腺超音波レポート

24 甲状腺 1-2-4 甲状腺検査の結果についてのお知らせ

24 甲状腺 1-3 検査実施スケジュール

24 甲状腺 1-4 ヨウ素摂取量と甲状腺の放射線ヨウ素摂取量の関連に係る文献調査候補

24 甲状腺 1-5 今後の予定（案）

6. 議 事

(1) 開会挨拶等

本会の開催に際し、谷口委員長より挨拶が行われ、次に環境省より挨拶が行われた。引き続き、委員等の自己紹介、配布資料の確認が行われた。

(2) 業務内容について

原安協より配付資料 24 甲状腺 1-1-1、1-1-2 に基づき、本事業の内容について説明を行った。引き続き、本委員会に先立ち、委員の了承を得ていた調査実施計画書および判定基準ワーキンググループについて、配付資料 24 甲状腺 1-1-3、1-1-4 にて最終確認を行った。

(3) 長崎大学における検査実施中間報告（配付資料：24 甲状腺 1-2-1~4）

林田氏（長崎大学）より長崎大学における検査スケジュール、実施方法ならびに検査進行状況の中間報告が行われた。検査実施人数は 11/27 現在で 739 人であり同意率は 99.3%となっている。

① 【実施方法】

- ・パーテーションで仕切り超音波診断装置 2 台を使用し 2 区画で行った。パーテーションの仕切りの外に椅子を 2 脚おき、ラミネート（エコーの受け方等）を掲示した。ただし幼稚園では仕切りがあると園児が不安になるためパーテーションは使用しなかった。
- ・本来、被検者をベッドの上に横にして検査を行うが、設置業者への依頼が困難であったため検査者自らが運搬・設置を行った。そのためキャンプ用のリクライニングチェアを使用した。幼稚園および小学校低学年の検査時はイスでは子供の甲状腺の高さが低い位置になるためクッションを置き調節した。そのためずり落ちたりすることはなかった。ベッドの昇り降りが無い分時間短縮になったのではないかと思われる。また、背中と背もたれの間丸めたバスタオルを入れたため幼稚園児はかえって仰向けになり頸部の検査は行いやすかった。
- ・超音波診断装置の設定は福島と同条件で行い、1 日 100 人前後を 3 時間で行った。

「その他」

- ・準備期間が短く検査実施者、備品の購入、検査当日の検査体制の構築が難しかった。
- ・超音波甲状腺レポートに添付するバーコードの作成は、業者に発注すると簡単だが納期が間に合わないためフリーのソフトを使用して自作した。
- ・検査当日は介助者等が必要なため保健学科の学生をアルバイトとして雇用した。検査が始まってからは事務作業が増えたためアルバイトを 1 人雇用した。
- ・機材の搬入・設置に関しては 1 人でも毎回同じメンバーが居るとスムーズに行えると感じた。

② 【検査結果の通知方法について（配布資料：24 甲状腺 1-2-4）】

- ・通知方法については福島で行っている県民健康管理調査で使用しているものをベースに作成した。
- ・通知した際に疑問になりそうな事項を Q&A としてまとめ同封することを予定している。

質疑応答は以下の通り。

「今後のフォローアップについて」

- ・本調査の今後のフォローアップについては、福島以外は決まっていないため（福島では2年毎にフォローアップしていくことが決定している）5mm以下の結節（A2判定）が見つかった子供に対してどのようにフォローしていくか。
 - A2判定の場合は2年後に医療機関で検査を行うように通知する程度で良いのではないかな。
 - 2年後だときちんと検査に行くかが心配。2年を待たずにすぐに行く人も少なからずは居るだろう。
 - 現在、長崎ではA2判定が4割～5割程度ある。全員に紹介状を出すのか。また全員を受け入れられる医療機関があるのかが問題。
 - 2年後に紹介状を出すのは難しいだろう。しかし、すぐに紹介状を出してしまうと今度は「福島はなぜ2年後なのか」ということになる。理想として2年後に対象者に医療機関へ検査に行くよう通知できればよいが、今後も本調査が行われていないと「誰が通知するのか」が問題になるだろう。
- ・長崎大学では基本的に長崎大学病院を紹介し希望があれば他病院を紹介する旨通知する予定にしている。

【まとめ】

- ・A2判定の結節のみに「2年後に検診を行うよう通知する」こととする。
- ・のう胞は圧迫等の自覚症状がなければ受診しなくてもよいとする。

「通知に記載する結節のサイズについて」

- ・結節のサイズの記載方法ならびにその他の所見をどこまで記入するのか。

【まとめ】

- ・〇mmと記入するとそれが大きいのか小さいのかなどの質問がくることを予想して、現状通り〇mm以下と記入する。
- ・胸腺は「所見なし」とし備考欄に記入するようにする（情報公開時に検査はきちんと行っていることが分かるようにする）。Q&Aからも削除する。
- ・画像だけではバセドウ病・橋本病の診断は難しいためコメントには記入しない。明らかに病的な物に関しては個別に対応するようにする（保護者への電話連絡等）。そのため検査者は検査時に異常がみられた場合、通院しているか、薬は飲んでいるか等をその場で聞いておくことが望ましい。
- ・通知は「甲状腺結節にのみ特化して記載する」こととする。

■その他の質疑応答

- ・電話相談は何件きているか。
 - 同意書提出段階で1件。検査後はまだきていない。検査通知後は増えると予想している。
- ・同意していないのは4～5名程度と思われるが理由は何か。

→同意していない理由は聞いていない。

(3) 各大学における今後の検査予定

各大学の今後の検査予定および進行状況について配付資料 24 甲状腺 1-3 により確認した。

① 進行状況について

※弘前大

- ・ 12/27 に高校での実施を検討中。ベッドの高さは重要なので注意してほしい。
→環境省が弘前大と連絡を取り合っている。検査日について弘前大と調整する。ベッドの高さについては福島での事例を確認し準備を行うこととする。
- ・ 備品（バーコードリーダー等）については谷口委員長が発注しているものもあるため週明けに確認することとする。バーコードも含め所見用紙については弘前大で準備を行う。
- ・ 中路医学部長が中心となって準備等を進めている。介助者も弘前大で準備をする。
- ・ 救急の医師は、小児のエコー検査の経験が少ないため、弘前大学救急部の医師が見学を行いたい旨の要望がある。検査者の了解が得られれば見学を了承したい。
→特に問題はないと回答をする。

※山梨大

- ・ 倫理委員会にて審査中である。物品の発注は今後行う。中学校の検査者 4 名は確保済み。
- ・ 高校は県立高校を予定しているが日程は決まっていない。検査は希望制としている。3 年生の実施も可能である。
- ・ 高校の検査者がまだ決まって居ない。
→鈴木委員より福島で検査を行っている人で山梨に行く事が可能かどうかを聞き要望があれば紹介することは可能とのこと。
- ・ 倫理委員会により幼稚園の検査では不安を取り除くようにとの要望があった。
- ・ 所見用紙のバーコード作成に人員不足が生じた場合は外注する可能性がある。

※長崎大

- ・ 高校は附属の学校がないため交渉中である。1/27～30 を予定している。ただし高校 3 年生は受験があるため高校 1 年生～2 年生のみとなる予定。

② 備品の確認

12/17～19 山梨大・弘前大が重なるため超音波診断装置の台数の確認を行った。

山梨大は 4 台必要。弘前大は 2 台必要。

現在長崎大で使用している 1 台を 12/7 が終わった時点で自治医大に返却。さらに自治医大の 1 台を借りる予定にしている。その他に 4 台あるため機器の準備は可能である。

- ・ 検査時に装置が固まってしまう動かないことがあるので地元の GE 社の地域担当に立ち会って貰った方がよい。バックアップ機材をレンタルできればなお可。

- ・データは通知の際に必要となる可能性があるため各大学においてバックアップすることとする（長崎大では病院への紹介状の際に画像を印刷したものを本人に、希望があればデータを紹介先に渡す予定にしている）。
- ・本調査で使用するGE社LOGIQ eは最近バージョンが変更になったため、新旧ですべて同じ設定になるように調整してもらうよう確認が必要。

(4) 文献調査について

高村委員より文献調査のレビューの報告を受け、今後翻訳を行う文献を配付資料24 甲状腺1-4の2番、5番、8番とすることを委員会において決定した。

(5) 今後の予定

- ・結果説明会の日程を早めに決めることとする。
- ・すべての検査が終わるのが1月末頃の予定である。検査結果はデータを集計表に入力し完了するのが2月中旬予定としている。終了後、今泉委員に疫学的観点から分析していただく予定にしている。
- ・第2回甲状腺結節性疾患有所見率等調査委員会の開催日は今後の検査進行状況によって決定することとする。

(6) その他

- ・今回の調査では、長崎大および弘前大の高校3年生は受験があるため17歳～18歳のデータが少なくなる。しかし、福島による今までの検査データによると高校高学年から20歳ぐらいの年齢に結節が見つかる比率が高くなる傾向にあるため、福島のデータと本調査で行った検査のデータに差が生じる恐れがある。今後、このことが注目された時の事を考えB判定の経過を把握しておいた方がよいが、本調査が継続しないと難しいだろう。数年後の医療機関への追跡調査は重要であると考え。

以上

